

東京2020復興のモニュメントは、被災地から世界へ「支援に対する感謝や、東京2020オリンピック・パラリンピックに出場するアスリートへ応援メッセージを届ける」とともに、「世界から被災地へ」「東京2020大会の応援への感謝やスポーツのもつ力・感動を届け、被災地を元気づけるといふ」、一方通行ではないコミュニケーションを図ることをコンセプトとした事業です。

被災地で開催されたワークショップにおいて、中高生が決定したデザインやメッセージをもとに、東京藝術大学の学生がモニュメントを制作。東京2020大会開催中は、国立競技場近くの関連施設に設置されています。カットされたダイヤモンドがモチーフの全長2mを超えるモニュメントには、中高生からの感謝のメッセージや、東京2020オリンピック・パラリンピック選手のサインも描かれています。



国際オリンピック委員会のトーマス・バッハ会長や、東京2020組織委員会の橋本聖子会長からのメッセージやサインも確認できる。ほかにもどんなアスリート、大会関係者がいるのか、じっくり見てみよう



東京藝術大学の学生と被災地の中・高生が共同して制作した。鮮やかな色使いに、元気がもらえる。ダイヤモンドのような面で形づくられたモニュメントには、宮城県仙台市出身、卓球の張本智和選手のサインも



大会開催中は、被災地から応援の気持ちをアスリートに届けていた。大会終了後は、アスリートらのサインを加工し、グランディ・21宮城県総合運動公園へ移転。モニュメント横には制作の流れがわかるパネルもある

考えてみよう

Q1 東京2020復興のモニュメント制作に用いられた素材は、再生アルミです。これは、東北被災3県で使用されていた仮設住宅のある部分を回収し、リサイクルしたものです。それは、住宅の一体どこでしょうか？

A1 仮設住宅で使われた窓(アルミサッシ)を回収し、リサイクルした再生アルミでモニュメントを制作した。

●りふちよう

利府町

被災地と世界を結び、互いの力に変える

東京2020復興のモニュメント

●とうきょうにーぜろにーぜろ ふつこうのものゆめんと

利府町の被害状況

最大震度	6弱
浸水面積	0.5km ²
最大浸水深	2.79m
全壊	56棟
半壊	901棟
一部損壊	3,564棟
死者	2人
行方不明者	
負傷者	4人

※被害状況のデータについては、注釈がないものはP.11下段に記載の資料に準拠
※空欄または「不明」としているものは準拠資料の通りに掲載

その他 (モニュメント)

施設DATA

●とうきょうにーぜろにーぜろ ふつこうのものゆめんと

東京2020復興のモニュメント

☎ 022-356-1122(宮城県総合運動公園) MAP P115C3

📍 利府町 菅谷字館40-1

📍 仙台北部道路利府しらかし台ICから車で3分

🕒 8~18時(第1駐車場の利用可能時間)

🆓 無料

🆓 無料

🅇 あり(大型バス:あり)